

平成 24 年度 広島県地震被害想定調査検討委員会（第 2 回）議事要旨

- 1 日 時 平成 24 年 9 月 21 日（金） 13 時 30 分～15 時 30 分
- 2 場 所 広島県広島市中区基町 10 番 52 号
広島県庁北館 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 土田委員長，岩井委員，海堀委員，香川委員，神野委員，柴田委員，
高橋委員，船本広島市消防局危機管理部長（山下委員代理），
本瓦委員
- 4 議 題 (1) 地震動等予測結果について
(2) 津波浸水予測について（予測手法・再現計算の結果等）
(3) 長者ヶ原断層調査について
(4) 被害想定項目・手法について
(5) その他
- 5 担当部署 広島県危機管理監危機管理課
TEL (082) 513-2784（ダイヤルイン）
- 6 会議の内容
※【 】内は，文脈を補足するために追記。

(1) 地震動の予測手法

- 次の事項について，各委員承認。
 - ・ 既に明らかとなっている断層等を震源とする地震動の予測手法（再現計算の結果を含む）
 - ・ 「どこでも起こりうる直下の地震」は，「既に明らかとなっている断層等を震源とする地震」と同じ地震動予測手法を用いる。
- 前回調査（H19.3）では，震度の補正を行っているが，今回の調査では，補正を行わないことについて，コメント【より現実的な想定となる手法を選定している。また，震度がより大きくなることもありうる】を加えて整理することで各委員承認。
- 南海トラフの地震動予測手法について，委員から次の意見が出された。
 - ・ 既に明らかとなっている断層等を震源とする地震動の計算結果から，深部地盤上面の最大速度と地表の震度等の関係表を作成した上で，その関係性を用いて，南海トラフの地表の震度等を求めるという事務局案に対し，その関係性を用いて換算が出来るだけの安定性があることを示すこと。
 - ・ 事務局案の手法を用いるのであれば，内閣府から小数点以下 2 桁以上の精度の震度を入手すること。
 - ・ また，そのようなデータ提供が無い場合も想定して，方法を組み立てること。
- 地震動予測結果の公表の方針について，委員から次の意見が出された。
 - ・ 五日市断層帯（己斐-広島西縁断層帯）は，地震調査研究推進本部公表資料は

M6.5ではあるが、最近では、地表で確認できる長さ以上に地下で断層が伸びている可能性があるため、M6.9をメインとし、M6.5を参考資料として整理した方が良いのではないか。

(2) 液状化危険度、土砂災害危険度の評価手法

- 液状化危険度の評価は、震度5弱以上の地域を対象に検討することで、各委員承認。
- 内閣府の液状化による地盤沈下量から建物被害を求める手法の妥当性については、委員会から次の意見が出された。
 - ・ 現段階では判断できないため、計算結果を次回委員会に諮ること。
- 土砂災害危険度の評価手法については、事務局案のとおり、各委員承認。

(3) 地震動（震度）の予測結果及び液状化危険度・土砂災害危険度の評価結果

- 地震動予測結果及び液状化危険度・土砂災害危険度（急傾斜地崩壊危険箇所、山腹崩壊危険地区）の評価結果については各委員了承。
- 土砂災害危険度のうち、地すべりについて委員から次の意見が出された。
 - ・ 地震発生時の地下水条件の設定が困難な地すべり被害は、発生・非発生の判断の根拠に乏しいことや、被害想定全体のバランスから見て対象箇所数も少ないこともあるので、被害想定から除外しても良いのではないか。

(4) 津波浸水予測手法等

- 次の各項目について、各委員了承。
 - ・ 再現計算の結果
 - ・ 南海トラフの巨大地震モデル検討会において設定された津波断層モデルの検討ケースの選定
 - ・ 瀬戸内海域活断層における断層モデルの設定及び今後の検討方針
 - ・ 津波予測条件等
- 瀬戸内海域活断層の津波浸水予測について、委員から次の意見が出された。
 - ・ 10mメッシュで計算する各領域において、津波高の高いもの2つに絞って計算して安全を確認すれば良いのではないか。
 - ・ 「讃岐山脈南縁～石鎚山脈北縁東部」の地盤変位分布は、「石鎚山脈北縁西部～伊予灘」のように対称になるのではないか。

(5) 長者ヶ原断層（および芳井断層）の調査概要

- 長者ヶ原断層（および芳井断層）の今後の調査方針については、各委員了承。

(6) 被害想定項目・手法の概要

- 想定シーンについて、委員から次の意見が出された。
 - ・ 風速8m/s（事務局案）より風速15m/s（前回調査）の方が、被害が大きくなるのではないか。

(7) 被害想定手法

- 経済被害想定項目について、委員から次の意見が出された。
 - ・ 内閣府の項目には、被害シナリオというものがあるが、広島県の特性を踏まえたものとした方が良いのではないか。

(8) 全般

- 被害想定報告書の公表方法について、委員から次の意見が出された。

- ・ 公表する際に、対策による減災効果が見えるケースを追加してはどうか。

7 会議の資料名一覧

- 資料 1-1 地震動の予測手法
- 資料 1-2 液状化危険度、土砂災害危険度の評価手法
- 資料 1-3 地震動（震度）の予測結果及び液状化危険度・土砂災害危険度の評価結果
- 資料 2 津波浸水予測手法等
- 資料 3 長者ヶ原断層（および芳井断層）の調査概要
- 資料 4-1 被害想定項目・手法の概要
- 資料 4-2 被害想定手法
- 参考資料 1 平成 24 年度広島県地震被害想定調査検討委員会（第 1 回）議事要旨